



平成20年度教育行政執行方針を述べる森教育長

平成20年度 教育行政執行方針

確かな学力と 生きる力を培う学校教育 いつでも、どこでも、 だれもが学べる生涯学習

教育行政の基本姿勢

平成20年第1回南富良野町議会定例会の開会にあたり、教育行政の方針を申し上げ、町議会並びに町民皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

近年、わが国を取り巻く社会情勢は、国際化、情報化、科学技術の進展、さらには少子高齢化の進行や経済構造の変化、価値観の多様化など、急速かつ複雑に変貌をとり、教育においてもこれら背景に、新しい時代に対応した改革が急速に進められております。

このような社会改革の流れの中で、次代を担う子ども達が、豊かな情操と優れた創造性を持ち、心も身体も健康でたくましい人間に育てていくことが極めて重要であり、さらに、町民一人ひとりが心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送るためには生涯にわたって学び続けて自らを高めることができる環境づくりが求められております。このため、教育委員会といたしましては、その使命と役割を認識し、町民皆様のご理解とご協力をいただきながら、

関係機関や団体等の連携により、次代のふるさとを築く子ども達の育成をはじめ、教育文化、スポーツ活動の推進に努めてまいります。

学校教育の推進

小中学校

はじめに、学校教育について申し上げます。

学校教育は、子ども達に基礎・基本を踏まえた、「確かな学力」「生きる力」を身に付けさせ、自ら考え、自ら行動できる資質を養うとともに、生命を大切に心、思いやりの心、感動する心など、健全な心身を育てる場であり、学校という共同生活を通じてコミュニケーション能力を培い、自立した人間形成の確立をめざす使命があります。

このため、各学校では、子ども一人ひとりの個性と能力を最大限に伸ばし、生涯にわたって生きる力を育むことを基本にして、子ども達が安心して学べる学校づくり、信頼される学校経営に取り組みてまいりますので、引き続き支援してまいります。

また、教育基本法や関係法

律が改正されるなど、学校を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。南富良野町の教育の現状を把握し、教育課程を確かめながら、家庭や地域、教育関係者と相互に連携を深め、明るく生き生きと心豊かな子どもを育てる教育に努めてまいります。

児童生徒や地域の特性に応じた「特色ある教育活動」や「開かれた学校」を推進するため、豊かな自然や歴史、文化、地域人材を活用し、地域の皆さんに対しては、学校開放や情報の発信、学校参観の実施を継続し、地域に合わせた学校づくりを目指してまいります。

近年は、学力の低下が指摘され、学ぶ意欲や学習習慣が課題でありますことから、町教育研究会や校長会と連携を図りながら、児童生徒の実態を把握し、学ぶ意欲や楽しさ、主体的な学習意欲を育て、個性を生かす学校ごとの、特色ある教育活動に支援してまいります。

へき地・複式教育については、小規模化が一層進む中で、複式学級や少人数の特性に応じた特色ある教育が必要であり、地域と一体となった教育

活動や体験活動を更に推進し、子どもの能力を最大限に引き出すよう個々に応じた指導を進め、学ぶ意欲を高めるため、集合学習や交流学習の継続など、学校間の交流を深めるとともに、へき地・複式教育連盟の研究活動に引き続き支援を行います。

平成19年度から学校教育法の改正で、障がいの程度等に応じ特別の場で指導を行う「特殊教育」から「特別支援教育」に変わり、障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うことになりました。

この特別支援教育は、従来の特殊教育対象だけでなく、学習障がいや、注意欠陥・多動性障がい及び高機能自閉症等を含めて、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものであり、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に努めてまいります。

各学校や医療・福祉などの関係機関が密接な連携を図り、特別支援教育を推進するため設置した南富良野町特別支援教育連絡協議会の充実を図ると共に、障がい等のある児童

の学校生活の指導・支援のため、幾度小学校に特別支援学級支援員を配置する予算を計上いたしました。

豊かな心の育成につきましては、近年、子ども達は社会性や規範意識が薄く、道徳心が低下していると指摘され、

昨年もまた、京都府で16歳の少女が父親を斧で殺害する事件、道内では函館の高校3年生が集団暴行死するなど、問題行動の低年齢化や凶悪化が続き、さらに、いじめ問題などが大きな社会問題となっており、教師と子ども達の心のふれあいを通して、善悪の判断や社会のルールを守るといふ基本的な規範意識や倫理観そして公共心や他人への思いやる心など、社会性を育てる教育が求められておりますので、子ども達の心に響く道徳教育を進めるとともに、学校が家庭や地域と連携して、生活体験、自然体験、社会体験さらにボランティア活動を進める中で、心豊かな子ども達の育成に努めてまいります。

また、児童生徒が健康で安全な生活を営むためには、自らの生命を守る判断力や行動力を育成する安全指導が最も大切でありますので、各教科



との関連の中で取り組んでまいりますとともに、学校における安全管理にも配慮し、関係機関や団体の協力のもと、交通安全および防犯の意識の向上に努めてまいります。

南富良野中学校を開設して3年が経ち、本校で3年間学んだ生徒が今春卒業いたしますが、基礎・基本の学習指導をはじめとした各種指導や部活動の推進に努めており、平成19年度は全道中学校かへ新聞コンクールで特別賞を受賞したほか、部活動では、スキーのアルペン種目で全国大会出場、クロスカントリースポーツで全道大会出場し、ソフトテニス、卓球では、上川管内大会に出場するなど好成績を修めていることは、統合の成果といえると思います。

学校給食

平成20年度も本校教育目標であります「心豊かに学び、共に明日の郷土を拓く、たくましい生徒」のもと、教育活動を進めてまいります。

学校給食は、食事を摂取することで、成長期にある児童生徒の体位向上と健康増進に重要な役割を果たすことだけでなく、生涯にわたって健康な生活を送るためには、給食を通して食生活の正しい知識と食習慣を身に付けてもらい、自己の健康管理ができる能力を育て、食の楽しさ、大切さを知る上で重要なものがあります。今後も栄養バランスを考慮した安全で好まれる給食を提供し、農作物の栽培活動などの体験学習等により学校における食育の推進に努めてまいります。

教職員の研修

教職員の研修についてありますが、児童生徒の健やかな成長に伝えるためには、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力に負うところが大きいものがあります。社会のめまぐるしい変化、保護者や地域のニーズが多様化す

る中、教職員一人ひとりがその信頼や期待に応えるためにも、豊かな感性と幅広い教養を持ち、実践的指導力を高め、それを最大限に発揮し、連携協働していくことが極めて重要であります。子ども達にいかにかくましく生きる力を育成させることができるかが問われていきますので、より一層の研鑽を積み、教師自ら資質向上されることを期待するとともに、校内研修をはじめ各種研修会などに積極的に参加されるよう奨励し、研修活動の充実に留意いたします。

高等学校

次に、南富良野高等学校についてありますが、本校の教育目標であります「国際社会の中で、豊かな心を持ち、たくましく生きる日本人の育成」を基本として、今日的な時代の要請や、生徒一人ひとりの個性や能力、適正を重んじた教育実践を進め、地域の特色を生かした学校づくりに努めているところであります。

しかしながら、過疎化、少子化による生徒数の減少のほか、学校選択の多様化、通学区域の拡大等により、安定し